

飛騨市介護サービス事業資質向上事業活動報告書

【事業所名】 飛騨寿楽苑 認知症対応型通所介護
【事業名】 音楽療法
【事業実施場所】 飛騨寿楽苑内 デイサービスルーム、やまなみホール
【事業概要・実績】 レクリエーションの在り方を模索する中、令和6年4月より音楽療法士の資格を持つ職員がデイサービスに配属となったことで、提供できる余暇支援の広がりを期待するとともに、その新しい活動が利用者の生きがい、やりがい、楽しみなどにつながるのでは、と音楽療法を取り入れることとした。 〈音楽療法とは〉 音楽療法とは、これまで当デイサービスで行なってきた、レクリエーションの中で歌を歌ったり時に楽器を使ったりといった単純に音楽を楽しむ、いわゆる娯乐的「音楽活動」とは一線を画し、「音楽の力を利用して、対象者の身体面、精神面などに働きかけることで、心身機能の維持や改善、生活の質を促進することを目的とする。短期的・長期的に明確な目標を立て実施」されるものである。 〈対象曜日選定〉 現在当デイサービス登録者は50名程であり、基本的に曜日ごとに利用者が異なるため、まず一通りの曜日で音楽活動を実施し、身体的な負担など考慮しながら実際に一年を通して音楽療法が可能となりそうな曜日を音楽療法士とともに慎重に選んだ。当デイサービス初の試みとなる、音楽療法士（谷口氏）による長期間に渡っての本格的な「音楽療法」は令和6年6月からスタートした（谷口氏は、練習が行われた日ごとに実施書を作成しており、それらは毎月のモニタリングにも役立てられている）。 〈音楽療法開始〉 《短期目標》 セラピストの指示で卓上ベルハーモニーを歌に合わせて鳴らすことができる 《長期目標》 セラピストの全体への支持を理解し歌いながらハンドベルを鳴らすことができる

実は計画当初は利用者の反応もその能力も予測できず、全くの手探り状態であったため、こちら側の緊張度はかなり高かったが、1回目、2回目の音楽療法の様子に驚愕することとなる。指揮をとる谷口氏へ向けられる皆さんの真剣な眼差し、キラキラした表情、その集中力。「やらされている感」は皆無でただ「楽しさ」、そして大人の真剣さが伝わってくる。あまりの素晴らしさに拍手喝采。すぐさま利用者から「家族に見てもらいたい！」の一言。「やりましょう！コンサート！！」。利用者の士気は一気に高まり、およそ一か月後に一度目の発表の場を予定し毎週練習に励んだが、残念ながら諸事情によりその日のコンサートは実施できず。皆さんの落胆ぶりを目の当たりにし、改めて12月にクリスマスコンサートを計画し、そこに向けて練習の日々が始まった（クリスマスコンサートならもう少しベルがほしいな、とここで思い切って卓上ベルハーモニーを購入した）。

〈クリスマスコンサート開催〉

再び目標ができたことでまたキラキラとした輝きが戻ってきた。音楽療法の前は「今日デイサービスで何やったの？」「デイサービス？そんな所行っとらん」「何したか？覚えとらん」。そんな会話をしていた方が音楽療法が始まってからは家に帰って「これ、今度発表するんやと。何着てきやいいろな」。音楽療法を通して、利用者にもご家族にも喜び、やりがい、生きがいを感じてもらうことができていた。お揃いのベレー帽、バンダナは職員が余り布で制作。そして迎えた12月2日。女性利用者は昼食も早々にメイキャップ。ご自分で髪を整える方も。お一人ずつ撮影して準備万端。苑内の入居者の方はもちろん、担当ケアマネジャー、ご家族、他のサービス事業者の方も見に来てくださり、最高のクリスマスコンサートとなった。

【事業目的】

- ・認知症対応型デイサービスとして、利用者の生きがい、やりがい、楽しみを見出す。
- ・「音楽活動」から「音楽療法」へ。
- ・コンサートを開催し、ご家族はじめ大勢の方に見てもらうことで、社会参加していることを実感できる。
- ・ご家族の喜び、安心（当デイサービスへの信用）につなげる。

【事業効果・成果】

6月から月曜日はできる限り音楽療法を実施してきた。しかし、週に1度しか練習できないことに加え、体調不良や受診、特養入居など様々な理由によって毎回全員がそろわわけではなく、気づけば開始当初から3分の1のメンバーが入れ替わっていた。そんな中でコンサートまでに練習できたのは実質14回であった。

7月開催を断念し一度は下がった士気も、クリスマスにコンサートを実施するという目標を立ててから再び上がってきた。コロナウィルスが流行り出した数年前から苑内でもイベントごとはすっかりなくなっていたため、感染予防の面からも集まることへの不安もあった。迎えた当日、演者となったのは利用者12名と途中特養入居になった方もお迎えし、あわせて13名。我々は認知症対応型のデイサービスである。1時間も集中できるのだろうか、その不安は大いにあった。しかし、チーム名「マンデーキャンディーズ」の皆さまの集中力たるや（言葉で表すにはとても足りないが）、素晴らしい圧巻の1時間だった。コンサート終了後、デイルームに戻って利用者の方の声かけで万歳三唱。あの満足感と自信に満ち溢れた皆さんの表情を忘れることはない。

「感動しました!」「これまで数多のコンサートを見てきましたが、今日のコンサートが一番良かった」「音楽って素晴らしいですね」「またぜひやってください」。ケアマネジャーの皆さんから嬉しいお言葉をいただいた。

ご家族からも「本当に良かった、感動しました。ありがとうございます」「こんなこと出来てしまうんですね」「音楽療法やるようになってからうちのお義母さん、ほんとうに変わりました。イキイキしてるんです。デイサービスに行きたくて行きたくて仕方なくて」「デイサービスが本当に楽しいみたいです」「コンサートを見せてもらって、ああこうゆうところにうちの母は来れているんだなと安心しました」と。

しかし、すべての方が順調だったわけではない。実は前日まで「絶対に出んぞ!」と仰っていた方がみえて、ご家族も我々もかなりやきもきしたが、前日の夜にとうとう

「明日はええ服着ていかならん」。当日誰よりも張り切って盛り上げて下さり、終わった後は他の利用者の方々に労いの言葉までかけてくださった。利用者にもご家族にも当然いろいろな思いがあって、そこに触れることができたこともとても大きかった。

認知症だから?忘れてしまうから難しい?いや認知症という概念もそこにはもうないのではないかというほど、可能性を見せていただき、生きがい、やりがいはこうも生きる力を与えるものなのかと目の前でまざまざと見せつけられた。普段触ったことも見たこともない楽器を手にし、その音に純粋に感動される姿、「やってみたらできた!」と

いう自信、「やってみたい」という積極性を持って「役割」を遂行し、またお互いを思いやり労いあい誉めあって称えあってどんどん仲間同士の絆が深まっていった様子も目の当たりにした。コンサートが終わったあと、「素晴らしかったです！大成功です！」と声をかけると「あんたたちのおかげ！」と口々に仰ってくださり、すべてをひっくり返して、ここには誰も置いていかない最高のコミュニティがあると実感することができた。我々も今回の計画を進める中で順調ではないこともあったが、あきらめず、話し合いアイデアを出し合い様々な角度から方法を探ってトライすることで結果につなげることができた。

マンデーキャンディーズのメンバーの顔写真、コンサートの様子は苑のホワイエで展示しており、皆さんもデイサービスの行き帰りにそれを見て「ようやったな」「ありがとうな」「またやろうよ」と声を掛け合う。こうして利用者も職員も同じ方向を見て、目標をやり遂げることができた。今回の経験をぜひまた次につなげていきたい。

【その他】

【写真など】

